

## 今回は、地域研究部・文芸部の学会発表について報告します。

### ◇ 日本考古学協会総会高校生ポスターセッションで最優秀賞を受賞しました！

日時： 令和元年 5 月 20 日(日) 10:00 ~ 16:00  
主催： 日本考古学協会 参加者： 地域研究部 10 名  
内容： 「雑誌『ひだびと』と江馬修の考古学研究」  
「国策・研究・観光開発 ~まぼろしの満州遺跡観光ツアー~」

### ◇ 最優秀賞受賞作品の研究内容

関高等学校地域研究部・文芸部は、昨年度より、『ひだびと』論争で名高い江馬修（えまなかし、1889~1975）の研究を進めています。江馬は作家として活動を続ける一方で、飛騨の考古学研究の推進役として活躍した人物です。今回の研究では、高山市保管の江馬コレクションの調査や著作・論文の分析を通じ、江馬の業績やその時代背景にも考察を加えました。

江馬は作家でもあり、代表作『山の民』の執筆時期は、精力的に考古学研究を行った時期とほぼ重なります（1933 - 1945）。今回の研究では、厳しい言論統制下において、学問や文学を通じ、江馬が何をめざしたのかについても追究しました。

### ◇ 当日のようす

駒澤大学世田谷キャンパスに到着し、高校生ポスターセッションの会場へ。朝から大勢の研究者が来場。緊張気味の生徒 10 名は、研究者の前で代わる代わるプレゼンに臨みました。研究者の方々から質問や意見、具体的なアドバイスをたくさんいただきました。

今回は本校を含め 15 校が参加。関高校はふたつの研究発表を行い、そのうちひとつが最優秀賞を受賞しました。

### ◇ 生徒の感想より

■ 様々な研究者の方に説明するのは難しかったけれど、去年よりも自分から進んで話せました。専門家のアドバイスから学ぶことも多かったので、これからの研究に活かしていけたらよいと思います。今回は難しいテーマに挑みましたが、江馬修の業績について理解が深まりました。時代の流れに埋もれた人物に焦点を当てて研究をするということは、とても意義のあるものだなと今回の発表を通じてよりいっそう感じました。

■ 今回、文芸部員として地域研究部と一緒に学会発表に参加して、とても貴重な経験ができました。緊張こそしたものの、たくさんの研究者の方々が私のつたない話を聞いてくださり嬉しかったです。また全国各地のポスターをみて説明を聞くだけでなく、他校の方々と交流ができ、とても楽しかったのもまたどこかで再会できたらいいと思いました。

